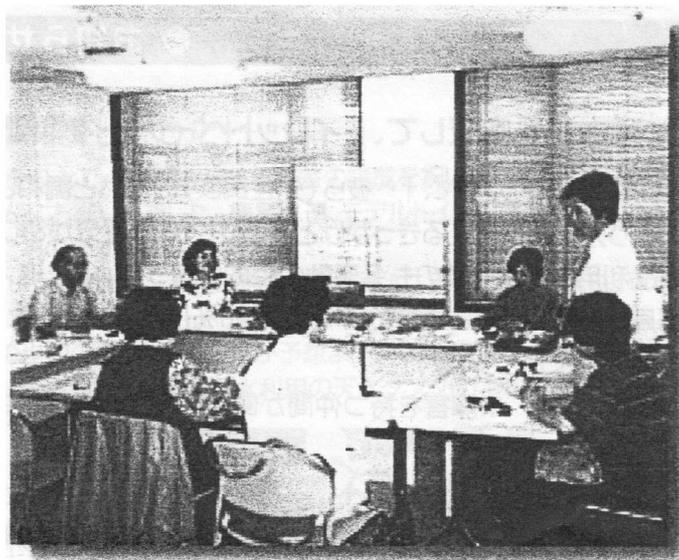


— 6月13日に、第1回総会を開きました—

出席者9名、委任状35通で、正会員、教育支援会員総数105名の3分の1を越えたので、総会は成立し、平成9年度の活動および決算報告、10年度の計画および予算案が承認されました。ご意見としては、諸経費をきちんと計上し、運営費の比率を適正に、会費収入に見合った活動を、などをいただきました。運営費の比率を今すぐ高めることは困難ですが、正会員数が現在の33名から50名程度にふえれば健全財政に近づけることが可能と考えております。一方、奨学会員(教育支援会員)の会費は、原則として、すべて奨学金として送金させて頂いております。

会の規約改正の承認もいただきました。改正内容は、運営委員の任期を2年とし再選を妨げない、代表等は委員の互選とするという項目の追加です。本来なら入会頂いたときに送付すべき会則ですが、一部会員にしかお送りしていません。配布ご希望の方は、お手数ですがご連絡下さい。



<承認を受けた新役員・昨年10月に暫定的に就任をお願いした役員の承認です>

運営委員: 山崎登美子(神奈川)、篠原貞義(香川)、橋本あき広(千葉)、高橋剛(新潟)、甲斐京子(神奈川)、
うち代表は山崎、副代表は篠原、会計は甲斐。監事: 藤川豊(山口)

● お知らせ・感謝 ●

<先住民族の10年>

今年は、1994年12月に、国連が定めた「先住民族の10年」の4年目に当たります。当会支援地域のピラーン族もミンダナオの先住民族として、いろいろ制約はありますが、先祖伝来の土地に対する使用権が認められました。

日本では、最初のアイヌ民族の国会議員・萱野茂参議院議員が、任期を終えて村に戻りました。1899年に制定された「北海道旧土人保護法」に代わる通称「アイヌ新法」制定という成果と、「狩猟民族は足元の明るいうちに村に帰る…」のこぼれを残して。

カナダでは、西部の州で、ニシュガ族(インディアンの一民族)が、2,000平方キロの土地所有権と自治権を獲得し、州および連邦政府と条約を結んだという記事がありました。(朝日8・6)

「先住民族の10年市民連絡会」が川崎に事務局をおいて、セミナーやニュースレターの発行で、問題提起をしています。世界各地の先住民族問題を取り上げています。HANDS事務局でも上記組織のニュースレターを購読しておりますので、関心のある方はお問い合わせ下さい。

<HANDSホームページをご利用ください>

ほぼ2週間に一回、現地情報を中心に内容を一部更新しています。会の活動報告はホームページで読むから、「ピラーン通信」の送付は必要ないという会員はお申し出下さい。

アドレス:<http://www.246.ne.jp/~hands-ty/hands.html>

<ピラーン通信ダイジェスト版試作しました>

経費や紙の節約のためもあって、今回1ページだけのダイジェスト版を作成し、報告は簡単なものでよいとの希望が多い小学生支援会員に試みにお送りしました。その他の会員も、次回ダイジェスト版の方をご希望の方は、その旨お申し出下さい。FAXでもお送りできます。